

健康的な居住環境により 2 型糖尿病の発症リスクが低下

ある特定の近隣環境が 2 型糖尿病の発症に影響を与えるかについての縦断的研究はこれまで実施されていない。そこで本研究では、健康的な食品や身体活動の機会が与えられる環境への長期的な暴露と糖尿病発症との関連性について検討した。

試験開始時（2000～2002 年）に 45～84 歳で、2 型糖尿病の既往がない 5,124 例を対象に、2012 年 2 月まで追跡した。その結果、中央値 8.9 年の追跡期間中に、616 例（12%）が 2 型糖尿病を発症した。2 型糖尿病発症リスクは、健康的な食品が手に入りやすい環境にある人で 12%、運動がしやすい環境にある人で 21%低下した。

今回の研究により、健康的な食品が入手しやすい、あるいは運動がしやすい居住環境にある人では 2 型糖尿病の発症リスクが低下することが示唆された。2 型糖尿病予防の介入においては、近隣の環境を整備する必要もあるであろう。

出典：Journal of the American Medical Association. Internal medicine.

Published online Jun 29, 2015; doi: 10.1001/jamainternmed.2015.2691.